

書評

Book Review

中国の金融経済を学ぶ

加速するモバイル決済と国際化する人民元

小原 篤次・神宮 健・伊藤 博・門 闖
編著

中国の金融経済を学ぶ
加速するモバイル決済と国際化する人民元

小原篤次・神宮健・伊藤博・門闖 編著



これからの世界経済を読むために
世界最大規模となった中国金融での
最新トレンドと今後の発展を予測する

発行：ミネルヴァ書房
定価：本体 3000 円＋税

僕らは何かの必要で中国の金融の一部に関心をもつのだが、少し勉強すると、中国の金融制度全体の仕組みが気になってくる。そこで概説書を探すのだが、書店の店頭にある多くの書籍は、正直、記述として少し古いか簡単なものが多い。最近のことまで書かれていて、かつ信頼がおける中国金融の概説書が欲しい。まさに本書はそうした要望に正面から答えるものだ。執筆メンバーは、中国の金融制度の研究の世界で、いずれも良く知られている人たちばかりだ。しかもそれらの人々が、その長年の蓄積を圧縮して、かつ最近の問題まで取り込んで後進に教示しているのが本書だ。

本書を手に取り、最初に驚いたのは執筆陣の陣容の素晴らしさである。

学会報告常連の小原篤次（長崎県立大学）、李立栄（京都先端科学技術大学）。中国関連の発言の多い、神宮健（野村総合研究所）、露口洋介（帝京大学）。さらに中国金融制度の童適平（独協大学）、中国都市商業銀行の門闖（大阪産業大学）、中国保険業の伊藤博（東京大学）。中国の農村金融に詳しい王雷軒（農林中金総合研究所）。そして中国中央財經大学金融学院フィンテック学部から戴犇、彭俞超のお二人という布陣である。

「あとがき」によれば、本書の中身は小原と門の二人が 2018 年 5 月に、詳細な企画案を練ったもの。そして執筆について中央財經大学のお二人の協力が得られるには、門闖さんの人脈が生きたようだ。執筆参加者は多いが、通読して中国の金融業管理体制の特質を規制緩和に一貫して慎重なものとなえ、そのため同質的銀行が形成され、銀行間の競争度が高まったとする門の視点（3 章 1・2 節）が本書の軸心であると感じた。

他方で本書は日中合作の書である。たとえば 6 章における不良債権処理機関としての四大 AMC についての門の記述に見られるように、中国人研究者ならではの視点・詳述は、私たちに欠けている視点・分析の反省材料になる。あるいは小原が第 5 章で提起した、国家資本主義の問題、終章で提起した中国人民銀行の金融政策の独立性問題、これらの小原の問題提起が示唆するのは、中国研究において、日本人研究者だからこそ提起できる視点があるのではないかという点である。本書は中国研究の日本での在り方の問題を改めて考えさせる。

（評者 福光 寛 成城大学経済学部 教授）